

なかとさちょうりつ

がっこうきゅうしよく

中土佐町立学校給食センター

～ふるさとの食を創造する人に～



ふるさとの食の大切さを伝える授業



児童が提案した地場産品のPRポスター

経緯

- 町産の新鮮な食材を使った、児童生徒に愛される学校給食を提供したいという町の願いがあった。
- 学校給食において、町内の食材をいかに確保し使用できるか、また、製品化や利用に不向きな食材をどのように活用したら良いのかを話し合い始めたことが取組のきっかけとなった。

取組内容

- 児童生徒の実態に適した給食量を提供することで残食料を減らす等食品ロスの削減。
- 町産食材を最優先し、次に県産の順で使用するなど地産地消の積極推進。
- 町特産品や規格外の食材等を活用した新メニューの開発。
- 授業を通じて地場産物を知り、生産者との交流を図るなどの食育活動を実践。

活動の効果

- 学校給食をきっかけに児童生徒が食材や生産に興味を持ち、地域の食の課題を考えたり解決したりする活動へと広がりを見せ始めている。
- 学校給食における町内産や県内産の使用割合である地場産率は約8割になるとともに、平成30年度以降、食品ロスを発生していない小学校も出現している。

応募団体からのアピール・メッセージ

「食」は生きる上で欠かせないものであり、知・徳・体を育む土台となる。その土台が地域からしっかりと支えられていることが、子どもたちの郷土愛となり、地域の未来を支える人へと成長することを願っている。